

土方巽暗黒舞踏技法試論 消える構造

—最後のワークショップを中心に—

文教大学 三上賀代

はじめに

暗黒舞踏創始者・土方巽（1928—1986）は、森羅万象あらゆるものにメタモルフォーゼする、‘なる’身体の可能性の発見による「肉体概念の拡張¹⁾」を舞踏の根本理念とした。それは、日常を生きる身体から舞踏の身体への身体意識の変容を図るものである。舞踏訓練は、言語→イメージ知覚→身体変容→動きの回路を舞踏手の「神経回路」として、舞踏の身体のための神経回路創りを目指して行われる。ここでは土方死の2カ月前最後の公開ワークショップ（1985年11月24日—11月30日）の記録を中心資料として、‘なる’身体と技法の特性を考察する。

結果と考察

●「瀕死の森へ、瀕死の舞へ、光へ、死へ、非在へ」

ワークショップ最終日のテーマは、「瀕死の森へ瀕死の舞へ、光へ、死へ、非在へ」である。これは、「舞踏とは命がけて突っ立った死体である²⁾」という土方のアフォリズムと同様に、土方が瀕死のいのち、すなわち思いと肉体、生と死に引き裂かれた肉体のせめぎ合いに現出するいのちの現れを舞踏の表現として求めていたことを示している。

さらに、「光へ、死へ、非在へ」という言葉は、その現れが、実在する肉体の無化に向かうものであることを示している。

●メカニズムにかかわる己の消滅へ

土方舞踏譜に示される様々な‘歩行’は‘型’は、その‘成立条件’の言語イメージにかかわることによって、身体の状態や動きが「押し出されて出てくる³⁾」動きの原理に基づいている。‘成立条件’は電流、硫酸といった身体知覚に直接訴えるイメージ喚起力の強いものから霧、煙、匂い等まで舞踏手の五感の知覚の助けとなるものである。最終日の「内触覚、外触覚」という‘成立条件’の知覚に至るまで、‘歩行’や‘型’の‘成立条件’は、舞踏手の意識の微細な分列が企図されている。この意識の分列は、身体の状態の変容という「メカニズムにかかわる」ことによって、「己の消滅へ⁴⁾」向かうために想定されていると考えられる。

土方の言う「己の消滅」とは、表現者の表現意識を消すことを指す。つまり「表現しないことによって現れてくる⁵⁾」表現のために、身体表現における操り操られる糸としての意識を自分自身に

隠す必要によってなされた意識の分裂である。

●肉体の消滅による空間の相貌の表出

身体境界の拡張、溶解を特徴とするワークショップの展開は、「実在する肉体の消滅⁶⁾」のイメージによる身体の空間化を図るものである。最終稽古最後の言葉として「あじさいの原、濃の海…タンポポが密生の野原…彼は峨々たる山を引いていたのだ」が残される。これは、土方が舞踏の創造空間を「にじみ、かすみ、すすけ」といった質感の変容によって表出しようとしたことを示している。

西欧舞踏の肉の燃焼するようなエネルギーに対し、土方は、蓬が燃える煙のような日本人の肉体を対置した。それは、「灰柱⁷⁾」にまで極粒子化した身体イメージによる、身体の空間化を企図するものである。

●無化の果ての無尽蔵な世界

「極希薄化した内触覚は無限に遠く、極微細化した外触覚は無限に高く⁸⁾」までの分列が要請される‘成立条件’は、日常を生きる身体から無限の条件を受動する舞踏の身体への一気呵成の投企を意味する。土方暗黒舞踏技法とは、究極的に「霧化⁹⁾」していくことで「無化¹⁰⁾」し、消えていく相貌としての空間表出のために、身体をいかに「霧化」、「無化」できるか、「実在する肉体の消滅」をいかに果たすかが求められたものである。無限の条件を受動しつづける「空っぽの絶えざる入れ替え¹¹⁾」が可能な器としての舞踏の身体、つまり‘なる’身体とは、舞踏家の意識において「無化」の果ての「無尽蔵な世界¹²⁾」の体现である。この「無尽蔵な世界」に向かうため、閉じられた時空間に置かれた身体意識の内と外の境界を取り去る。土方の「無尽蔵な世界」への展望は「迷い¹³⁾」の生を基盤に、‘消えていく’ことによる時空を超えた体感への導きであった。

おわりに

‘なる’身体は、表現しないことによって美しい樹のように、無限の条件を受動しつづける無限の変容を果たす刻々の存在の美を指している。「一本の糸に吊られてどこにでも行きなさい¹⁴⁾」という土方の言葉は、「踊りたい」という切実な思いを基に「表現しない」ための方法として、舞踏譜の中に舞踏へと導く一本、無限の糸を残したことを示している。究極的にはその糸さえも消えてしまう自在な表現に向けて、残された舞踏手たちが、自らの方法を探るべき方向が示されることとなった。

文献

三上『器としての身体—土方暗黒舞踏技法へのアプローチ』ANZ堂 1993

「土方巽研究—暗黒舞踏技法試論」学位論文
お茶の水女子大博甲第63号 1997.3

注)は土方語録、出典略